聞東上陸地支局

昭和　年　月　日

史実調査参考資料報告

所在地	沖縄県宮古島	職官	大隊指揮班長 陸軍大尉	摘要
所属部隊	砲兵第三十八聯隊	氏名	[redacted]	位

支那事変以降ニ於ケル自己ノ略歴	昭和十六年七月十四日 應召 大隊本部附 昭和十八年九月一日 任陸軍中尉 大隊副官 昭和二十年八月二十日 任陸軍大尉 指揮班長 宮古島防衛戦ニ参加	職ハ変更及ビ生ジタル参加戦斗名ヲ記ス	終戦時ノモノヲ記ス
所在部隊ノ編成年月日及編制装備ノ概要	昭和十五年八月十五日満州公主嶺ニ於テ編成完結ス 昭和十九年六月二十五日動員下令ニ編成ス 聯隊長 陸軍大佐 梶村秀治郎 本部 九四式山砲一二門 弾薬各門二〇〇〇発 第一大隊 九四式山砲一二門 弾薬各門二〇〇〇発 第二大隊 九五式十糎山砲一二門 弾薬各門一二〇〇発		
所属部隊作戦経過ノ概要	昭和十九年八月十日沖縄ニ宮古島上陸 同年九月頃同年十月台湾沖航空戦ニ参加	最後ノ所属部隊ヲ主トシ尚ソノ以前ノ所属部隊ノ分ニモ概記ス	
終戦(又ハ主ナル戦斗終了)後ノ概況	終戦後ハ自活作業ニ専ラ「玉作業」ニ従事 昭和二十年五月ヨリ対空戦斗飛行場掩護		
復員(又ハ連絡)先	終戦ニ伴ヒ宮古島防衛隊ニ編入ス		
其他ノ参考事項	終戦後自給自活ニ依存 [redacted] 帰還輸送ノ状況ヲモ併記ス		
備考	特殺ニ記載セシメ和歌復員者ハ人事部ニ送付ス		

32

離島上陸地支局

実況調査参考資

昭和二一年一月一八日

報告

所在地	沖縄県宮古島	職官	中隊長陸軍中尉	摘要
所属部隊	山砲兵第三八聯隊	氏名	[redacted]	終戦時ノモノヲ記ス

戦争ニ関シ以降ニ於ケル自己ノ略歴	昭和十六年十一月一日 少尉任官 中隊附 昭和十八年九月一日 中尉任官 仝 昭和十九年八月二日 大隊指揮班長動員完結 昭和二十年六月五日 中隊長	職変更及主ナル参加戦斗名ヲ記ス
所在部隊ノ編成年月日及編制装備ノ概要	昭和十五年八月十五日満洲国公主嶺ニ於テ編成完結セラル 昭和十九年六月三日動員下令右編成装備ヲ以テ出動ス 聯隊長 陸軍大佐 梅松次郎 山砲兵中三八聯隊本部 [redacted] 第一大隊 九四式山砲十門 [redacted] 仝第二大隊 九九式十糎山砲十門 [redacted] 第三大隊 仝	最後所属部隊ヲ主トシ尚ソノ以前ノ所属部隊ノ分ヲモ概記ス
所属部隊作戦経過ノ概要	昭和十九年八月十二日沖縄出発宮古島上陸(仝年九日)上旬ヨリ約一箇月間飛行場設定作業 仝年十月台湾沖航空戦ニ参加爾後終戦ニ至ル迄宮古島防衛戦ニ終始ス 昭和二十年五月ヨリ対空監視勤務ニ従事 昭和二十年五月ヨリ対空戦斗 並ニ対空監視勤務ニ従事 天一号作戦ニ参加爾後終戦ニ至ル迄宮古島防衛戦ニ終始ス	
終戦(又ハ主力ノ戦斗終了)後ノ概況	終戦後ハ自活作業ニ専念シ特ニ「活作命」ニ依テ戦没作業帰還輸送トシ総テ自給自足ニ依リ食糧確保ノ為ニ定量ニ依リ之ヲ充足シ未ダ利用シ幹部ノ指導ニ依リ又作業間ノ現場指導ニ基ク個性教育ト相俟ツテ軍人精神ノ修養練磨ニ精進シ帰郷還送ニ当リテハ未曾有ノ豪雨ニ遭遇シ最モ困難ナル軍紀ニ依リ一名ノ事故者モ生ズルコトナク春ヶ日滑ニ浦賀港ニ上陸スルヲ得タリ	[redacted]
帰郷(又ハ連絡)先		
其ノ他ノ参考事項		
備考	特技ニ関シ載セシメ沖一復員者 実部ニ送付又	

陸地支局

人事調査参考資料

昭和　年　月　日

所在地	沖縄県宮古島	職官	報告
所属部隊	山砲兵第三聯隊	氏名	[redacted]

所在部隊ノ編成年月日及編制装備ノ概要	昭和十年十二月十日 陸軍士官学校卒業、見習士官 昭和十年十二月十日 任陸軍少尉 山砲第三聯隊中隊附 昭和十六年八月一日 任陸軍中尉 中隊長 動員完結 警備 昭和十年六月十日 任陸軍大尉 天号作戦参加	職、姓名及主ナル参加戦斗名ヲ記ス	終戦時ノモノヲ記ス
所属部隊作戦経過ノ概要	昭和十九年八月十日沖縄県宮古島上陸 八月中旬ノ間飛行場設定作業 八月十日台湾中部ニ戦闘勤務 九月十日台湾中部ニ戦闘勤務 十月十日台湾中部ニ戦闘勤務 十月末日	最後ノ所属部隊ヲ主トシ尚ソノ以前ノ所属部隊ノ分ヲモ概記ス	
終戦(又ハ主力ノ戦斗終了)後ノ概況	終戦後自活作業ニ邁進シ主力ハ自活作業ニ専念シ一部ハ食糧難ノ充足ニ努メ定量ノ自給自足ニ努ム 精神的方面ニ於テ朝夕ノ訓話ニ努メ 神儀養成精神	帰還輸送ノ状況ヲモ併記ス	
帰郷(又ハ連絡)先	[redacted]		
其ノ他ノ参考事項			
備考	特技ニ記載セシメ沖縄復員省ニ送付ス		

關東上陸地点局

史実調査参考資料報告

昭和　年　月　日

所在地	沖縄県宮古島	職官	段列長 陸軍中尉
所属部隊	山砲兵第[redacted]大隊	氏名	[redacted]

支那事変以降ニ於ケル自己ノ略歴	昭和十九年七月一日 仙台陸軍少尉 昭和二十年六月十日 仙台陸軍中尉 天一号作戦参加 小隊長、特設第[redacted]中隊長	職ノ変更及主ナル参加戦斗名ヲ記ス
所在部隊ノ編成年月日及編制表ノ概要	昭和十五年八月十日満洲国[redacted]省公主嶺ニ於テ編成完結セラレ次デ昭和十九年六月二十七日動員下令ヲ以テ編成装備ヲ完了シ出動ス 聯隊長 陸軍大佐 梶松治郎 山砲兵第[redacted]大聯隊 九四式山砲 十五門 [redacted] 第一大隊 同 [redacted] 第二大隊 九六式十糎山砲 十門 [redacted] 第三大隊 [redacted]	最後ノ所属部隊ヲ主ニシ尚ソノ以前ノ所属部隊ノ分ヲモ概記ス
作戦部隊ノ作戦経過ノ概要	昭和十九年八月十日 沖縄諸島宮古島ニ上陸 同日 宮古島ノ防衛ニ当ル 同年十月 台湾沖航空戦ニ際シ飛行場設定作業 昭和二十年五月ヨリ 対空戦ニ際シ飛行場設定作業 自昭和二十年三月末 至同年六月 宮古島防衛戦ニ参加	
終戦（又ハ主力ノ戦斗終了）後ノ概況	終戦後（自活作業ニ専念ス） 塩ヲ目的トシ自足ニヨリ食糧難ヲ克服シ或ハ定量或ハ定量ニヨリ立ち直リ足ニ来シ 軍紀厳粛ニシテ又ハ平ト云フ 朝夕ハ用ヲ勤部ノ実践陶冶ト個性教育ニ相俟チ軍紀ノ作養ニ精進ヨリ [redacted] 帰還輸送ニヨリ米軍ニ乗船シ乗船沖縄ニ帰還セリ 里帰ニヨリ一五年ぶりに生ぶ下ち[illegible]円滑ニ沖縄ニ上陸セリ	帰還輸送ノ概況ヲモ併記ス
帰郷（又ハ連絡）先	[redacted]	
其他ノ参考事項	十	
備考	特殊ニ記載セシメ沖縄県省	八実部ニ送付ス

昭和二十年一月十八日

歸東上陸地支局

史実調査参考資料報告

陸軍獣医少尉 [redacted]

所在地	沖縄県宮古島	職官	陸軍獣医少尉
所属部隊	山砲兵第三十八聯隊	氏名	[redacted]

支那事変以降ニ於ケル自己ノ略歴

昭和十六年七月十四日 近衛第三聯隊ニ召集セラル

〃 八月四日 満州国北安ニ到着 爾後引続キ第三十八聯隊ニ転属 哈爾浜ニ駐屯

〃 十月二十日 山砲兵第三十八聯隊 宮古島ニ上陸 同地ニ駐屯

十九年八月十二日 沖縄県宮古島ニ上陸 同地ニ駐屯

所在部隊ノ編成年月日及編制概要

昭和十五年八月十五日 満洲国公主嶺ニ於テ編成ス 完結セラルヲ以テ出動ス

聯隊長 陸軍大佐 稲垣松平郎 命令ニ依リ 馬匹 自ラ十頭

山砲兵第三十八聯隊本部 三十名

第一大隊 九四式山砲十二門 弾薬 三五〇発

第二大隊 同 十二門 弾薬 三五〇発

第三大隊 九九式十糧山砲十二門 弾薬 三五〇発

所属部隊作戦経過ノ概要

昭和十九年八月十二日沖縄県宮古島上陸 同年九月ヨリ約ケ月間陣地構築ニ従事 昭和二十年十月ヨリ対空戦斗飛行場掩護射撃並ニ対空監視勤務 自昭和二十年二月ヨリ大隊ノ一部ヲ以テ敵上陸ヲ阻止ス 爾後 宮古島ニ駐屯 終戦ニ至ル

最後ノ所属部隊ヲ主トシ 尚ホ以前ノ所属部隊ノ命令ヲ概記ス

終戦(又ハ主力ノ戦斗終了)後ノ概況

終戦ニ伴フ自治作業ニ専念シ土地ノ活作命ニ基ク戦技作業トシ 総テ自給自足ニ依ル食糧難ニ克服シ或ハ定量ヲ超ス増産ヲ成シ 又利用シ部隊ノ実践躬行ト軍規厳粛等ニ後ノ文化事業ノ現場指導ニ携リ個性教育ヲ相俟テ軍人ノ精神修養ニ練磨ニ精進セリ。帰還輸送ハ部隊ノ改廃ニ伴フ軍規ニ則リ一次ノ予定ニ則リ米軍上陸ノ事故者モ生ズルコトナク無事ニ上陸ス

帰還輸送ノ状況ヲモ併記ス

帰郷(又ハ連絡)先

其ノ他ノ参考事項

備考

特殊ニ記載セシメ第一復員者 人事部ニ送付ス

聞東上陸地点

史実調査参考資料報告

昭和二十年一月十八日

所在地	所属部隊	支那事変以降ニ於ケル自己ノ略歴	所在部隊ノ編成年月日及編制装備ノ概要	所属部隊作戦経過ノ概要	終戦(又ハ主力ノ戦斗終了)後ノ概況	帰郷(又ハ連絡)先	其ノ他ノ参考事項	備考
沖縄県宮古郡城辺村	陸軍獣医中尉	職官	名					摘要
	山砲兵第三連隊	昭和六年七月十四日	昭和十五年(一九四〇年)十月十五日満洲国公主嶺ニ於テ編成シ完結セシ	昭和九年(一九三四年)五月十日沖縄県宮古島上陸ヲ以テ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中	帰郷輸送ノ状況ヲモ併記ス		終戦時ノモノヲ記ス
	〃	〃	次ニ昭和九年六月ニ至リ動員下令ス	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	動ス 聯隊長 樋松次郎	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	山砲兵第三連隊本部 第一大隊 九九式山砲三門 弾薬	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	第二五〇号 第二大隊 九九式山砲六門 弾薬	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	八月十四日 先遣隊ノ編成ニ於テ編成シ完結セシ	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	六月三日 出動下令	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	七月十日 満洲哈爾濱附近警備	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	十一月三十日 歩兵第三聯隊転属哈爾濱附近警備	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	十九年一月三十八日 山砲兵第三連隊転属哈爾濱附近警備	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	五月十五日 満洲哈爾濱附近警備	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	六月三日 出動下令	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	八月十四日 先遣隊ノ編成ニ於テ編成シ完結セシ	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	次ニ昭和九年六月ニ至リ動員下令ス	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	動ス 聯隊長 樋松次郎	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	山砲兵第三連隊本部 第一大隊 九九式山砲六門 弾薬	昭和九年(一九三四年)十月ニ至リ沖縄守備隊ニ編入ス	終戦ノ日迄宮古島防衛戦中			
	〃	〃	第二五〇号 第二大隊 九九式山砲六門 弾薬

昭和三十年一月十又日

関東上陸地支局

史実調査参考資料報告

所在地	宮古島	職官	陸軍歩兵中尉	3B
所属部隊	山砲兵第三十八聯隊	氏名	[redacted]	

支那事変以降ニ於ケル自己ノ略歴	所在部隊ノ編成年月日及編制装備ノ概要	所属部隊作戦経過ノ概要	終戦(又ハ主力ノ戦斗終了)後ノ概況	帰郷(又ハ連絡)先	其ノ他ノ参考事項	備考
昭和十六、七、一四、東部第十二部隊ニ應召 昭和十七、八、八、満州哈爾濱山砲兵第三十八聯隊附 昭和十七、八、三九、陸軍歩兵少尉 昭和十九、三九、山砲下令 昭和十九、八、十四、先島群島宮古島進駐 今島守備 昭和十九、一一、一一、陸軍歩兵中尉	昭和十九年八月十四日構州公主嶺ニ於テ編成ニ着手昭和十九年十一月二十七日動員令ニ依リ編成ニ着手ス 編成装備ノ概要 聯隊長 [illegible] 大隊 九四式山砲 十門 名川 250 [illegible] 150 [illegible] 100 [illegible] 百発 [illegible] 同 [illegible] 百発 [illegible] 百発	昭和十九年八月十日沖縄ニ於テ宮古島上陸同年九月上旬ヨリ約一ヶ年間飛行場設定作業ニ従事昭和二十年台湾沖航空戦ニ動員ス 同年十月ヨリ対空監視戦ニ移行飛行場警備ニ従事同年十月末天一号作戦ニ参加爾后終戦ニ至ル迄宮古島防衛ニ終始ス	無戦后ハ自活作業ニ専念ス 「活作令」ニ依リ戦争犯罪人ト認メラレタル者ハ自粛自戒ス 作戦業ト主ノ関ヲ自粛自戒ス 復員ニ成ハ人ノ主量ニ依リ全部撤収ス 帰郷ニ当リ特ニ変ハリナシ 軍部ノ要請ニ応ジ陶器工場ニ於テ朝夕ヲ利用シ自ノ現場指導ニ依リ又作業指導ノ修養講習ニ指導ニ指導ニ努メタリ	帰還輸送ノ如況ニ付記ス	戦後ハ「ポツダム」宣言ニ基ク米船乗船ニ依リ帰郷ニ当リ米船ニ依リ乗船ニ依リ帰郷ニ当リ米船ニ依リ乗船ニ依リ帰郷ニ当リ米船ニ依リ

陸軍上陸地支局

史実調査参考資料 報告

昭和二十一年一月十七日

所在地 宮古島

所属部隊 山砲兵第十大聯隊

支那事変以降ニ於ケル自己ノ略歴	所在部隊ノ編成年月日及編制装備ノ概要	所属部隊作戦経過ノ概要	終戦(又ハ主力ノ戦斗終了)後ノ概況	帰郷(又ハ連絡)先	其他ノ参考事項	備考
昭和十六、二、一 現役ニシテ野砲第十聯隊ニ入営ス 同年同月 幹部候補生ニ採用 十七、四、十三 満州国ニ渡満 同年同月 満州国境警備ニ従事 十七、十二、一 陸軍少尉ニ任官 十九、七、一 山砲兵第十大聯隊ニ転属	昭和十九年八月十日 満州国吉林省公主嶺ニ於テ編成ス 八、十二 宮古島ニ上陸 同島警備 完結セル後ノ昭和十九年六月二十七日動員下令ス 編成ノ概要	昭和十九年八月十二日 沖縄県宮古島上陸 同年九月 宮古島警備ニ従事	終戦後 自治作業ニ率先シ之ヲ指揮命令シ以テ戦技ノ作業トシ総テ自給自足ニ依リ食糧難ヲ克服シ或ハ一日一定量ニ依リ之ヲ充足シ来リ精神的方面ニ於テハ立ちテ朝夕ヲ利用シ幹部ノ実践陶冶ト軍紀教育等ニ依リ又ハ作業間ノ現場指導ニ依リ国民教育ト相俟チ軍人精神ノ涵養ニ精進セリ 帰還輸送ニ方リテハ米船上ヘリウト号ニ乗船部隊ノ最後ニ上陸ス 軍紀厳正ニ保チ故郷ヲ離ルル際ノ感慨ヲ偲ブ	帰郷 宮古島	特筆ニ記載セシメ第一復員省ニ送付ス

聯隊長 陸軍大佐 梶村次郎 馬匹 百二十頭

山砲兵第二十八聯隊本部 九四式山砲十二門(弾薬各門 1500発)

第一大隊 九四式山砲十二門(弾薬各門 1500発)

第二大隊 〃

第三大隊 九九式十糎山砲十二門(弾薬各門 1500発)

人員 二千三百五十名

昭和二十年五月ヨリ対空陣地動務

昭和二十年五月ヨリ対空戦中戦闘動務ニ従フ

昭和二十年五月ヨリ飛行場掩護射撃並ニ陶冶作業ニ従フ

昭和二十年六月ヨリ沖縄決戦ニ参加

同年六月二十日 天一号作戦ニ参加

玉砕宮古島防衛戦ニ終始ス

最後ノ所属部隊ヲ主トシ尚ソノ以前ノ所属部隊ノ概況ヲモ併記ス

終戦時ノモノヲ記ス

職ハ変更及主ナル参加戦斗名ヲ記ス

[redacted]

[redacted]

聞事上陸地文局

文書調査報告書

昭和　年　月

傳聞ノ概要	終戦ノ概況	終戦時先遣隊	特殊ニ記載ヲ要スル事項	概況所感部隊	備及編成ノ概要	自以降ニ於ケル略ヲ	所在地	所属部隊	職名 氏名	文書調査報告書	昭和　年　月
終戦ノ概況	終戦ノ概況	[redacted]		概況所感部隊	備及編成ノ概要	自以降ニ於ケル略ヲ	所在地	所属部隊	職名 氏名	[redacted]	稿

関東上陸地点局

史実調査参考資 報告

所在地	宮古島	職官	大隊指揮班長
所属部隊	山砲兵第28聯隊	氏名	[redacted]

		摘要
入隊年月日	昭16年1月10日	現役兵トシテ山砲兵第28聯隊ニ入営
以降ノ経歴	17年12月1日	仕陸軍少尉
	至19年6月27日	砲車小隊長トシテ嘉手納飛行場警備
自己ノ略歴	自19年8月17日 至20年8月15日	大隊観測掛ー連絡掛ー指揮班長トシテ参加
	19年9月15日	宮古島防衛戦ニ参加
所属部隊ノ編成ノ概要	昭和15年8月15日	陸軍大臣 梅津美治郎 次官 阿南惟幾 人員 二千三百五名 馬匹 百二十頭
	自20年8月	動員下令
	聯隊長 陸軍大佐 梶松次郎	砲車 六門 弾薬 [illegible]
	山砲兵第28聯隊中部	第一大隊 九四式山砲 六門
		第二大隊 〃
		第三大隊 九九式野砲 [illegible]
作戦部隊ノ作戦経過ノ概要	昭和20年1月頃ヨリ約1ヶ月間	宮古島陸軍司令部ノ命ニヨリ嘉手納飛行場警備作業
	同年10月頃ヨリ	敵戦車隊ノ来襲ニ備エ戦車壕掘鑿勤務従事
	昭和20年5月ヨリ	対空戦車壕掘鑿勤務従事
	昭和20年3月末	天号作戦ニ参加
	6月末	陸戦勤務
	宮古島防衛戦ニ終戦	
終戦ノ時ノ状況	終戦ノ時ノ作業	作業ヲ中止シ武器ヲ捨テ戦闘ヲ終ル
	自給自足ニ依リ食糧難ヲ克服シ或ハ十三定量或ハ十二定量ニ依リ之ヲ充足シ来リ	作業ヲ中止シ武器ヲ捨テ戦闘ヲ終ル
	精神的ニ於テモ朝夕引用ノ軍歌陶冶ト軍記厳粛ニ依リ又作業間現場指導ニ接シ個性啓発相俟ケ軍人精神修養研磨ニ精進シ帰郷輸送ヲ待ツ	
	部隊最後ニ於ル軍紀ニ依リ一名ノ事故者モ生ズルコトナク整然円滑ニ解散ニ入ル	
陸軍(又ハ連隊)先		
其ノ他ノ参考事項		
備考	将校ニ記載セシメ第一復員省 人事部ニ送付ス	

最後ノ所属部隊ヲ主ニシ尚ソノ以前ノ所属部隊ノ分ニ概記ス

終戦時ノモノ記ス

戦ノ変更及ビ参加戦斗ヲ記ス

帰還輸送ノ状況ヲモ記ス

歸東上陸地支局

史実調査参考資料報告

所在地	宮古島	職名	宮古砲兵小隊長 中尉
所属部隊	山砲兵第三大聯隊第[redacted]隊		

支那事変以降ニ於ケル自己ノ略歴	自昭和十年八月三十三日 山砲兵第三十八聯隊ニ於テ中隊銃列長トシテ 至昭和十三年四月三十四日 中支戦闘並ニ臺灣待機 昭和十五年八月一日山砲兵第三十八聯隊轉属ル 昭和十三年十月十三日ヨリ昭和十九年七月 四日滿洲ニ在リテ小隊長トシテ警備勤務ニ従事 昭和十九年七月十八日ヨリ昭和二十年八月十五日 任陸軍少尉 昭和十九年七月十八日ヨリ昭和二十年八月十五日小隊長ト シテ宮古島警備 昭和二十年四月三十日任陸軍中尉	戦闘参加戦斗経過ニ関スル概要ヲ記ス
所在部隊及編成年月日	昭和十五年八月十五日滿洲國吉林省公主嶺ニ於テ編成		
編成装備ノ概要	聯隊長陸軍大佐 掘松次郎 人員三千三百五十名 馬匹一百三十頭 第一大隊 九四式山砲十門 弾薬各門二千五百発 第二大隊 〃 〃 第三大隊 九九式十糧山砲 〃		
所属部隊作戦経過ノ概要	昭和十九年七月十八日沖縄県宮古島上陸同年九月上旬ヨリ約一ヶ月間飛行場設定作業 同年十月台湾沖航空戦斗勤務ニ従事 昭和二十年五月ヨリ対空戦斗飛行場掩護射撃並対空監視勤務 自昭和二十年三月末日 至六月三十日 天一号作戦ニ参加爾後終戦ニ至ル迄宮古島防衛戦斗ニ終始ス	最後所属部隊ヲ主トシ尚ソノ以前ノ所属部隊ノ命令ニ概記ス	
終戦(又ハ生カシタル戦斗経過)後ノ概況	終戦后ハ自活作業ニ専念シ之ヲ指導命令ス 自給自足ノ作業トシ総ヲ自給自足ノ精神的方面ニ於テハ主トシテ朝夕利用シ幹部ノ賞罰陶冶ト軍紀教練等ニ依リ又ハ現場指導ニヨル個性教育ト相俟ツ軍人精神ノ修養練磨ニ精進セリ 帰還輸送ニ方リテハ米船エバリット号ニ乗船 乗船部隊ノ厳重ナル事務ニ基リ一名ノ事故者ヲ生ズルコトナク整斉圓滑ニ浦賀港ニ上陸スルヲ得タリ	帰還輸送ノ状況ヲ併記ス	
帰郷(又ハ逝去)先	[redacted]		
其ノ他ノ参考事項			
備考	特殊ニ記載セシメ第一復員省ニ送付ス		